

# ISL Conference Proxy

## 新規セットアップマニュアル



## 目次

1	オンプレミスライセンスについて.....	3
2	インストール.....	5
3	ユーザーの作成.....	17
4	プロダクトログインページ.....	18
5	ISL Conference Proxy のエラーメッセージ.....	19
6	ネットワークの設定.....	20
7	ISL Conference Proxy の再起動.....	22
8	バックアップ.....	22
9	アンインストール.....	23

### ※補足（本マニュアルについて）

- ・本マニュアルは ISL Conference Proxy を新規に構築する手順をご案内しております。
- ・ISL Conference Proxy の管理者ページの操作方法および主な設定については、別紙『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。
- ・ISL Conference Proxy のアップグレードまたは移行の手順につきましては、別紙『ISL Conference Proxy アップグレード&移行マニュアル』をご参照ください。

## 1 オンプレミスライセンスについて

ISL Online オンプレミスライセンスを使用すると、自社のサーバーで稼働する ISL Light、ISL AlwaysOn および ISL Groop のシステムを構築することができます。自社内のネットワークのみで使用する場合、クラウドライセンスのようにインターネットを経由しないため、セッションを完全にコントロールすることができるようになります。

このマニュアルでは ISL Online オンプレミスライセンスでセッションの接続やユーザーの管理を行う ISL Conference Proxy のインストールおよび設定方法について説明します。ISL Conference Proxy をインストールし、ISL Online オンプレミスライセンスを使用できるようにするには、ネットワークやサーバーの仕組みについて理解している必要があります。

ISL Conference Proxy のインストールを開始する際は、事前に下記の必要システムの構成を確認してください。なお、クラウドライセンス（クラウドライセンス年間契約またはプリペイドクーポン）を使用する場合は、ISL Conference Proxy をインストールする必要はありません。

### ▼ISL Conference Proxy 4.3.9 のインストールに必要なシステム構成

#### ●対応 OS

- ・ Windows Server 2008 R2 SP1 (64bit)
- ・ Windows Server 2012 (64bit)
- ・ Windows Server 2012 R2 (64bit)
- ・ Windows Server 2016 (64bit)

※以下の仮想化環境上でも利用できます。

- ・ Hyper-V 2.0 上で動作するゲスト OS
- ・ Hyper-V Server 2012、Hyper-V Server 2012 R2 上で動作するゲスト OS
- ・ VMware ESXi 5.5、VMware ESXi 6.0 上で動作するゲスト OS

#### ●マシンスペック（最小構成）

- ・ CPU : 2GHz 以上、メモリ : 4GB 以上、HDD : 10GB 以上の空き容量  
(専用のハードウェアをご用意いただくことを推奨しています。)

※同時接続数や常駐モジュール (ISL AlwaysOn) の台数に応じたハードウェアの要件は、次のページに記載している ISL Online 「動作環境」 ページをご参照ください。

#### ●通信環境

- ・ 最低速度 : 256Kbps (DSL) 以上
- ・ 通信ポート (初期値) : 内向き TCP ポート 7615、443、80 (任意のポートに変更可能)

➡ ISL Conference Proxy をインストールするサーバーで F-Secure アンチウイルス が稼働している場合、以下の設定を行う必要があります。

- ・ リアルタイムスキャンのスキャン対象から以下のフォルダ（ISL Conference Proxy のインストールフォルダ）を除外してください。

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy

- ・ ディープガードのスキャン対象から以下のアプリケーションを除外してください。

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥confproxy\_server.exe

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥pg\_tool.exe

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥postgresql\_bin¥bin¥pg\_ctl.exe

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥postgresql\_bin¥bin¥initdb.exe

C:¥Program Files¥ISL Conference Proxy¥postgresql\_bin¥bin¥postgres.exe

最新情報、同時接続数や常駐モジュール（ISL AlwaysOn）の台数に応じたハードウェア要件については、以下の URL をご参照ください。

ISL Online 「動作環境」

<http://www.islonline.jp/features/requirements.html>

#### ▼セッション実行可能台数

ISL Online オンプレミス コーポレートをご利用の場合、ISL Conference Proxy がインストールされた一つのサーバーを使用して同時に実行できるセッション数の上限は 50 セッションです。なお、50 セッションに満たない場合でも、画面共有時の描画が遅くなるなどの現象が発生する場合があります。その場合は、サーバーのシステム構成の変更または追加を検討してください。

#### ▼ISL AlwaysOn 登録可能台数

ISL Conference Proxy がインストールされた一つのサーバーに登録できる ISL AlwaysOn のインストール済みクライアント端末数の上限は 10,000 台です。

## 2 インストール

ISL Conference Proxy をインストールする際は、以下の手順に従います。

- 2.1 ライセンスファイル、インストーラー、モジュール関連 ZIP ファイルの取得
- 2.2 ISL Conference Proxy のインストール
- 2.3 ライセンスファイルの適用
- 2.4 マニュアルアップデート

※[2.1]については、インターネットに接続した環境で行う必要があります。

### 2.1 ライセンスファイル、インストーラー、モジュール関連 ZIP ファイルの取得

1. ISL Online のトップページ (<http://www.islonline.jp/>) から、マイアカウント&ログインページにログインします。

#### 購入前ユーザーの方:

ISL の製品ページ (<http://www.islonline.jp/>) にアクセスし、無料体験用アカウントを作成します。アカウントを取得したら、登録に使用した Email アドレスと通知されたパスワードを使用してログインします。

#### 購入後ユーザーの方:

登録済み Email アドレスとパスワードを入力してログインします。

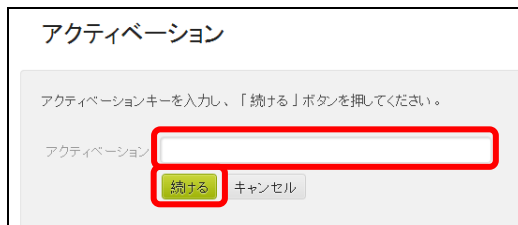
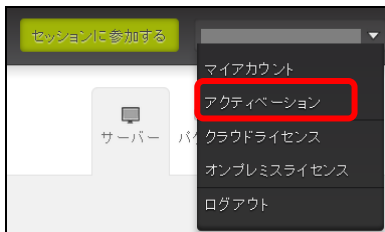
### 2. アクティベーションキーの登録

#### 購入前ユーザーの方:

このステップを飛ばし、ステップ[3.]に進んでください。

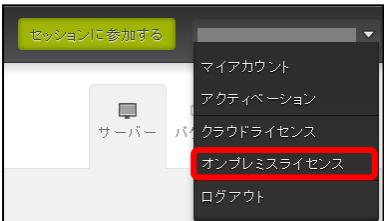

#### 購入後ユーザーの方:


アクティベーションを行っていない場合、右上のメニューから[アクティベーション]を選択し、アクティベーション画面上でキーを入力します。[続ける]ボタンをクリックして、ウィザードの指示に従ってライセンスを有効化します。



### 3. パケットの新規作成

#### 購入前ユーザーの方:

-  右上のメニューから [オンプレミスライセンス] を選択し、[サーバーの追加] をクリックします。

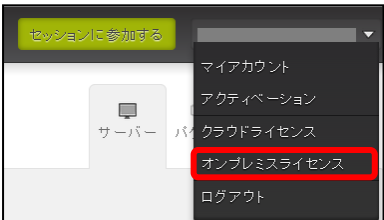

-  ISL Conference Proxy をインストールするサーバーの「IP アドレスまたは DNS 名」を入力して、「保存」をクリックします。


※サーバー名は必須ではありません。未入力の場合は「Server#」の名前で登録されます。

- 「パケットの作成」ボタンをクリックして、手順 4. に進みます。



#### 購入後ユーザーの方:

-  右上のメニューから [オンプレミスライセンス] を選択し、[サーバーの追加] をクリックします。


-  ISL Conference Proxy をインストールするサーバーの「IP アドレスまたは DNS 名」を入力して、「保存」をクリックします。

※サーバー名は必須ではありません。未入力の場合は「Server#」の名前で登録されます。

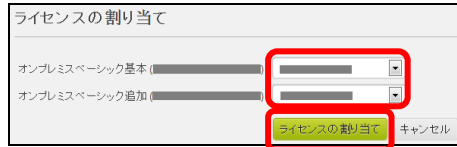
(補足 1) : DNS 名でのライセンスファイル作成について (推奨)

(補足 2) : 内部 IP アドレスは必須ではありません

➡ 詳細は 8 ページをご参照ください。

- 「ライセンスの割り当て」をクリックします。

4. 1 で設定した「IP アドレスまたは DNS 名」を指定し、「ライセンスの割り当て」をクリックします。



5. 「パケットの作成」をクリックして、手順 4. に進みます。

パケットの作成

4. ライセンスファイル、インストーラー、モジュール関連 ZIP ファイルの取得

#### 購入前ユーザーおよび購入後ユーザーの方

1. 手順 3. で [パケット作成] をクリックします。
2. 「サーバー」に 3. で入力した「IP アドレスまたは DNS 名」が表示されていることを確認し、[作成] をクリックします。



3. [インストールガイド] のボタンと、ライセンスファイル (confproxy-4-3. license) のリンクが表示されます。リンクをクリックして、①②を取得します。

パケット ( )				
作成日	サーバー	保守期限	ライセンスファイル	アクション
10.05.2017 ?			<a href="#">confproxy-4-3.license</a>	<a href="#">インストールガイド</a> 削除

#### ①ライセンスファイル

[confproxy-4-3. license] をクリックして、ライセンスファイル (confproxy-4-3. license) をダウンロードします。

#### ②インストーラー、モジュール関連 ZIP ファイル

[インストールガイド] をクリックして、表示されるページから ISL Conference Proxy のインストーラーとモジュール関連 ZIP ファイルをダウンロードします。

➡ (補足 1) : DNS 名でのライセンスファイルの作成 (推奨)

- ・サーバーを移行する際、ライセンスファイルを IP アドレスではなく DNS 名で作成していた場合、移行先のサーバーで DNS 名を変更しなければ、IP アドレスが変わった場合もそのまま同じライセンスファイルを適用することが可能で、各種プログラムの再インストール、再ダウンロードが不要となります。
- ・ISL Conference Proxy の管理画面およびプロダクトログインページの URL 名を IP アドレスではなく DNS 名で利用する場合は、ライセンスファイル作成時に IP アドレスではなく DNS 名 (FQDN) のライセンスファイルを作成してください。

➡ (補足 2) : 内部 IP アドレスは必須ではありません

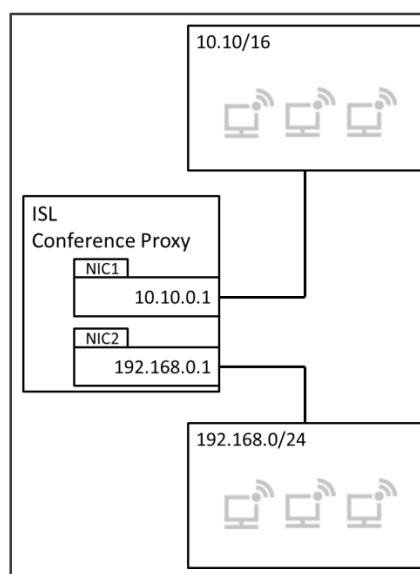
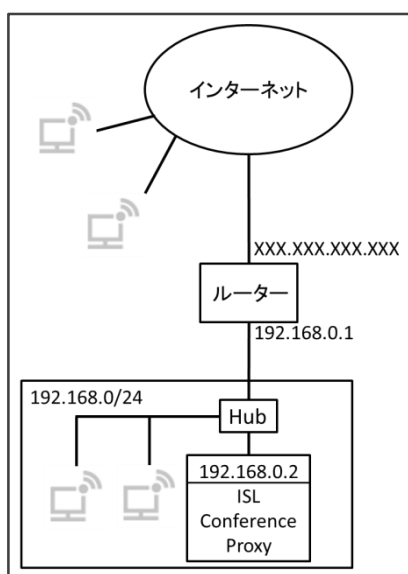
- ・内部 IP アドレスの入力は必須ではありません。内部 IP アドレス (以下、内部アドレス) を入力する必要があるケースとして、以下の例があります。以下のケースに該当しない場合は、「IP アドレスまたは DNS 名 (以下、外部アドレス)」のみを入力します。

(例 1) プライベートネットワーク内にある ISL Conference Proxy に当該プライベートネットワーク内から、またインターネットを経由して外部ネットワークからアクセスして使用する場合

(例 2) プライベートネットワーク内にある ISL Conference Proxy にセグメントの異なる 2 つのプライベートネットワークからアクセスして使用する場合

(例 1)  
外部アドレス 「XXX.XXX.XXX.XXX」  
                  (グローバル IP)  
内部アドレス 「192.168.0.2」  
                  (プライベート IP)

(例 2)  
外部アドレス 「10.10.0.1」  
                  (プライベート IP)  
内部アドレス 「192.168.0.1」  
                  (プライベート IP)





- ・「内部 IP アドレス」に入力する IP アドレスは、以下の IP アドレス（RFC1918 で既定されたプライベート IP アドレス）から ISL Conference Proxy のプロダクトログインページにアクセスした時の接続先となります。
  - ・ 10.0.0.0 – 10.255.255.255 (10/8 prefix)
  - ・ 172.16.0.0 – 172.31.255.255 (172.16/12 prefix)
  - ・ 192.168.0.0 – 192.168.255.255 (192.168/16 prefix)

上記に該当する IP アドレスからプロダクトログインページにアクセスした場合、接続先として使用されるアドレス（ページ内の各リンク先アドレス）は「内部 IP アドレス」となります。

- ・例 2 のケースで「10.10/16」内の端末から ISL Conference Proxy（<http://10.10.0.1/users/main/join.html>）にアクセスした場合、プロダクトログインページは表示されますが、ページ内の各リンク先アドレスには内部アドレス「192.168.0.1」が使われ、リンク先にアクセスできなくなります。

これを回避するために、以下の設定が必要です。（ISL Conference Proxy のセットアップ完了後に行います）

1. ISL Conference Proxy の管理画面にログインし、画面左側のメニュー [Configuration]-[Security] を選択します。
2. [Force networks to public internet address:]のチェックを外し、接続先として「外部アドレス」を使用する接続元アドレスを入力し、ページ最下部の [Save] をクリックします。

サブネットマスクのプレフィックス表記が使用できます。

（例 2 の場合「10.10.0.0/16」と入力します）

#### ➡ (補足 3) : 接続元 IP アドレスの確認について

- ・ ISL Conference Proxy へのアクセスする際の接続元 IP アドレスは、以下の URL で確認できます。

[http://\(サーバーの IP アドレスまたはホスト名:ポート番号\)/myip](http://(サーバーの IP アドレスまたはホスト名:ポート番号)/myip)

例 : IP アドレス「192.168.0.123」ポート「7615」の場合

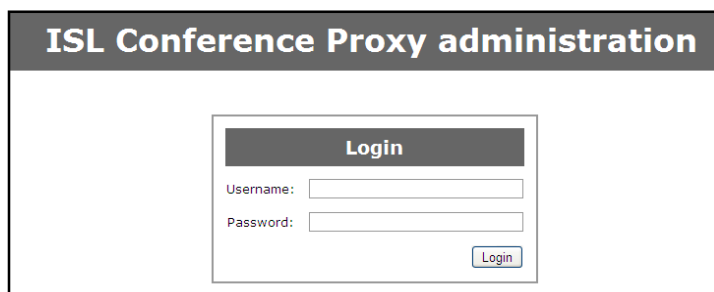
<http://192.168.0.123:7615/myip>

## 2.2 ISL Conference Proxy のインストール

ISL Conference Proxy を新規にインストールする手順をご案内します。

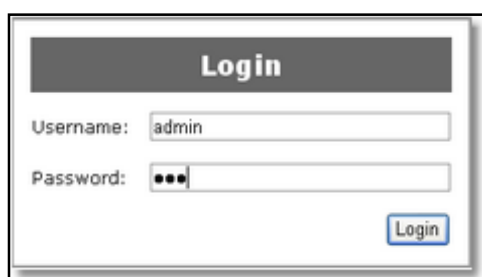
[手順]

1. プログラムのインストール権限を持つアカウントで、サーバーにログインします。
2. ダウンロードしたインストーラーをダブルクリックし、ISL Conference Proxy をサーバーにインストールします。表示されるインストールウィザードに従ってください。
3. インストールが完了すると、ブラウザ上で ISL Conference Proxy の管理画面 (ISL Conference Proxy administration) が自動的に開きます (管理画面が開くまで時間がかかる場合があります)。



※管理画面は、Windows のスタートメニューから [ISL Conference Proxy]-[Web administration] をクリックするか、ブラウザで「<http://localhost:7615/conf>」と入力して開くこともできます。(7615 部分は利用中のポート番号です。)

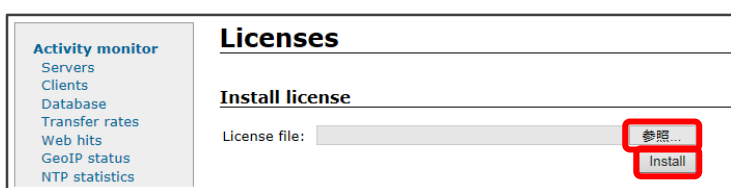
4. ログイン画面が開いたら、[Username]に「admin」、[Password]に「asd」と入力してログインします。



## 2.3 ライセンスファイルの適用

ISL Conference Proxy を適切に動作させるには、有効なライセンスファイルが必要です。ライセンスファイルを登録していない場合やライセンスの期限が切れた場合は、製品をご利用いただくことはできません。

1. ライセンスファイル「confproxy-4-3.license」を任意の場所に保存します。
2. ISL Conference Proxy の管理画面にログインし、画面左側のメニューから [Manage software]-[Licenses] を選択します。
3. [参照] から、保存したライセンスファイルを指定して [Install] をクリックします。



4. [Restart ISL Conference Proxy] をクリックします。  
ISL Conference Proxy の再起動が行われます。完了するまで待ちます。再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合、ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります。再起動が完了すると、[Please click here to go back to the session] のリンクが表示されます。クリックして管理画面に戻ります。(ログインページが表示された場合は再度ログインを行ってください)  
以上でライセンスファイルの適用は完了です。

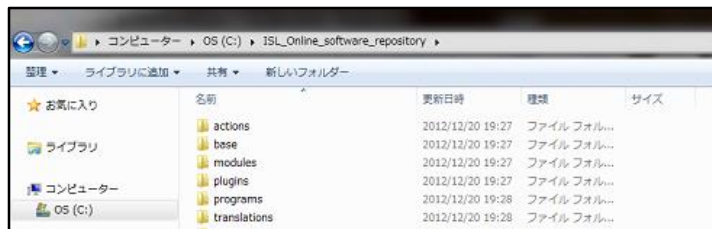
### ➡ (補足) ライセンスファイルとデジタル署名について

- ・ 保守サポート期間中のアカウントでライセンスファイルを作成した場合、各プログラムに ISL Online の開発元である XLAB 社のデジタル署名が付与されます。体験版の場合は、デジタル署名は付与されません。
- ・ 2016 年 8 月 23 日以降にライセンスファイルを作成した場合、デジタル署名を付与するコードサイン証明書有効期限は「2019 年 8 月 20 日」です。
- ・ 複数年保守にご加入中のユーザー様の環境では、保守期間内にデジタル署名の有効期限が切れる場合がございます。
- ・ デジタル署名の有効期限後もプログラムは使用できますが、プログラムのダウンロード時や実行時に警告メッセージが表示される場合があります。
- ・ デジタル署名の有効期限が切れた場合は下記 FAQ ページ内の【ライセンスファイルの入れ替え】を行うことで期限を更新できます。

[http://www.islonline.jp/help/on-premise\\_change.html](http://www.islonline.jp/help/on-premise_change.html)

## 2.4 マニュアルアップデート

1. モジュール関連 ZIP を解凍して得られる「ISL\_Conference\_Proxy\_software\_repository」フォルダを C ドライブ直下に保存します。



2. ISL Conference Proxy の管理画面にログインし、画面左側のメニューから [Manage Software]-[Manual update] をクリックします。
3. [2. Enter the full path to the software repository:] の欄で、[Use standard location] が選択されていることを確認し、[Save] をクリックします。  
クリック後、[Current software update URL is set to] の値が「file:///C%3a/ISL\_Online\_software\_repository」になっていることを確認し、[Online update] をクリックします。

### Manual update

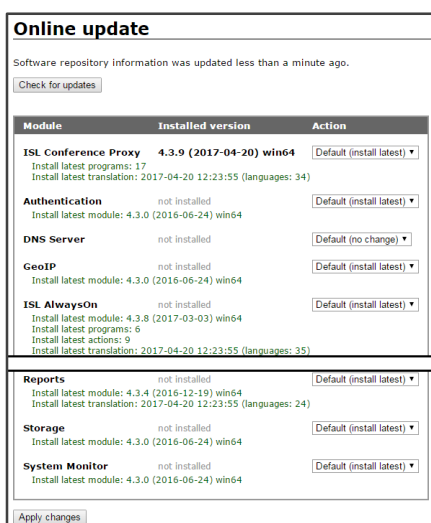
If the server is firewalled from the internet and it is not possible to use [Online update](#) with a remote software repository, the manual update procedure may be used to upgrade ISL Conference Proxy.

Please follow the steps:

1. Download [ISL\\_Online\\_software\\_repository.zip](#) and extract it into a folder of your choice (for example: C:\ISL\_Online\_software\_repository)
2. Enter the full path to the software repository:  
 Use standard location: C:\ISL\_Online\_software\_repository  
 Use custom location:
3. Start:

**Current software update URL is set to: file:///C%3a/ISL\_Online\_software\_repository**

4. [Online update] 画面が表示されます。



5. 各製品のモジュールやプログラムに対し、プルダウンメニューから実行内容を選択します。通常は[Default (install latest)]を選択してください。



・ **Default (install latest) および Install latest :**

最新バージョンのモジュール/プログラムをインストールします※

・ **install all :**

全てのバージョンをインストールします

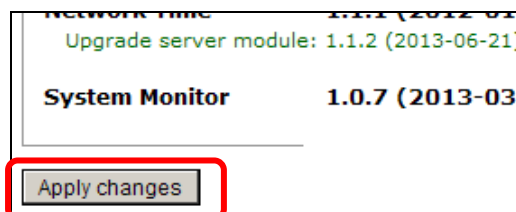
・ **Manual install :**

手動で任意のバージョンをインストールします。([Edit update list...]をクリックして、任意のバージョンを選択します。)

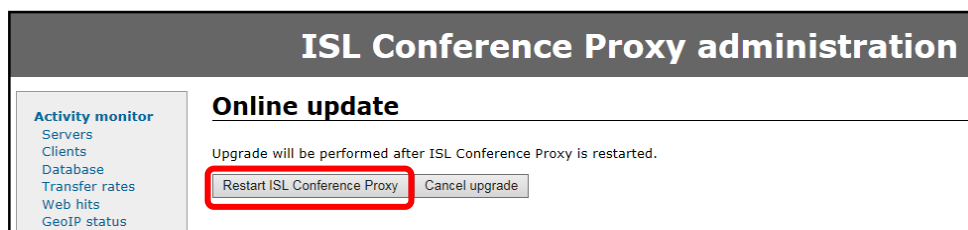
・ **Uninstall all :** モジュール/プログラムをアンインストールします

※Default (install latest) 選択時は、緑字で表示された各種モジュールおよびプログラムが自動でインストールされます。(推奨)

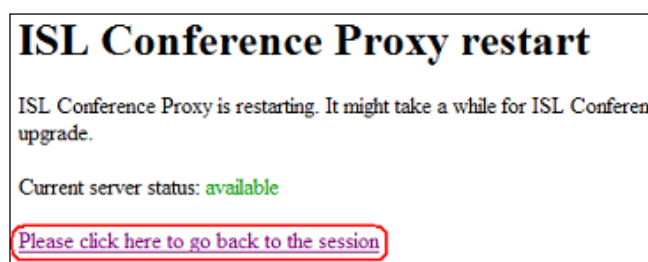
6. 画面左下にある[Apply changes]をクリックするとアップデートが開始されます。グレーの画面が表示される場合は、消えるまでお待ちください。



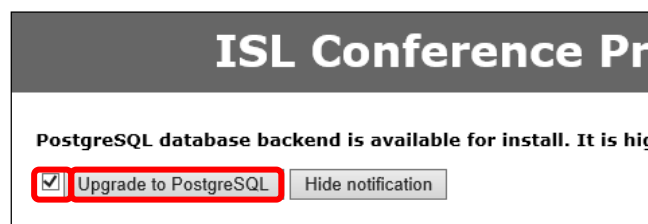
7. アップデートが正常に終了すると、画面上部に [Restart ISL Conference Proxy] のボタンが表示されます。クリックして ISL Conference Proxy を再起動します。



8. ISL Conference Proxy の再起動が完了するまでお待ちください。再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合、ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります。再起動が完了すると「Please click here to go back to the session」というメッセージが表示されます。メッセージをクリックして [Online update] 画面に戻ります。  
(ログインページが表示された場合は再度ログインを行ってください)



9. [Online update] 画面上部に、[Upgrade to PostgreSQL] のメッセージが表示されている場合は、チェックを入れてクリックします。(メッセージが表示されていない場合はこれで作業完了です。)



10. ISL Conference Proxy の再起動が行われます。完了するまで待ちます。再起動中にサーバーのシャットダウンなどを行った場合は ISL Conference Proxy が正常に動作しなくなる可能性があります。再起動が完了すると、「Please click here to go back to the session」のメッセージが表示されます。

これで [Manual Upgrade] 作業は完了です。

➡(補足)

再起動後、画面左側のメニューから[Manage software] > [Overview]を選択して現在インストールされているモジュール、プログラム、プラグインの一覧が確認できます。

(例: ISL Conference Proxy 4.3.9のインストールが正常に行われた場合は、[Modules]欄の ISL Conference Proxy の Version が「4.3.9」になります)

※2017年10月現在、ISL各製品のモジュール、プログラムの最新バージョンは以下の通りです

Modules ※Platformは ISL Conference Proxy をインストールしている OS にしたがって「win64」と表示されます			
Name	Platform※	Version	Release date
ISL Conference Proxy	win64	4.3.9	2017-04-20
PostgreSQL	win64	4.3.9	2017-04-20
Storage	Win64	4.3.0	2016-06-24
Reports	win64	4.3.4	2016-12-19
Authentication	win64	4.3.0	2016-06-24
GeoIP	win64	4.3.0	2016-06-24
ISL AlwaysOn	win64	4.3.8	2017-03-03
ISL Groop	win64	4.3.9	2017-04-20
ISL Light	win64	4.3.8	2017-03-03
Locale	win64	4.3.0	2016-06-24
Network Time	win64	4.3.0	2016-06-24
System Monitor	win64	4.3.0	2016-06-24

Programs ※Windows OS が 64bit 版の場合、Platformは「win32」になります ※OS が Mac 製品の場合、Platformは「mac」または「macppc」になります			
Name	Platform※	Version	Release date
ISL Tester	win32	4.1.0	2015-02-25
	mac	4.1.0	2015-02-25
ISL AlwaysOn	win32	2.2.9	2016-05-23
	mac	2.2.9	2016-05-23
ISL AlwaysOn Connect	win32	2.2.0	2014-09-30
	mac	2.2.0	2014-09-30

ISL Groop	win32	3.1.0	2016-04-07
ISL Light	win32	4.1.1	2016-05-10
	mac	4.1.2	2016-09-27
ISL Light Client	win32	4.1.4	2017-03-20
	mac	4.1.2	2016-09-27
ISL Light Desk	win32	4.1.4	2017-03-20
	mac	3.3.5	2014-07-23
ISL Network Start	win32	4.1.0	2014-11-21
	Mac	4.3.3	2016-10-19
ISL Player	win32	4.0.0	2015-12-18
	mac	4.0.0	2015-12-18
ISL WebStart	win32	1.0.2	2012-11-06

Plugins ※Windows OSが64bit版の場合、Platformは「win32」になります ※OSがMac製品の場合、Platformは「mac」または「macppc」になります			
Name	Platform(Flavor)	Version	Release date
Audio	win32	1.2.3	2010-03-02
	Win32 (NT)	1.3.0	2011-02-03
Desktop Control	win32	1.2.9	2010-04-12
	macppc	1.3.0	2011-06-24
	mac	1.3.3	2013-08-23
	Win32 (NT)	1.4.15	2017-03-20
File Transfer	Win32	1.4.1	2013-09-26
	macppc	1.3.0	2011-06-24
	mac	1.3.2	2012-10-04
Remote Printing	win32 (NT)	1.4.1	2016-05-18
Recording	win32	1.4.0	2012-11-06
Video	win32	4.1.2	2017-01-12
Windows 95 pack	win32	1.2.0	2008-11-24



### 3 ユーザーの作成

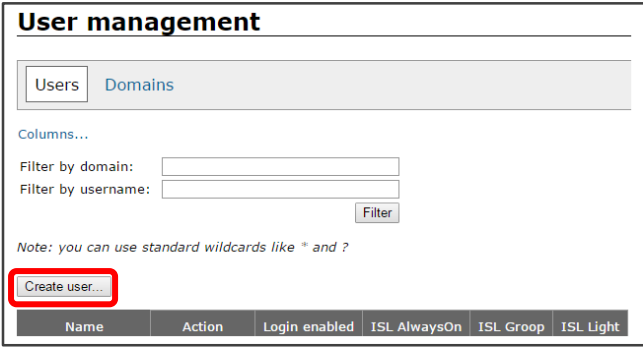
ISL Conference Proxy のセットアップ後に、動作確認を行うためのユーザー作成手順をご案内します。

ユーザーの作成と管理は管理画面左側メニューの[User management]で設定を行います。

ユーザーを管理するドメイン機能など、[User management]の詳細については、別紙『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

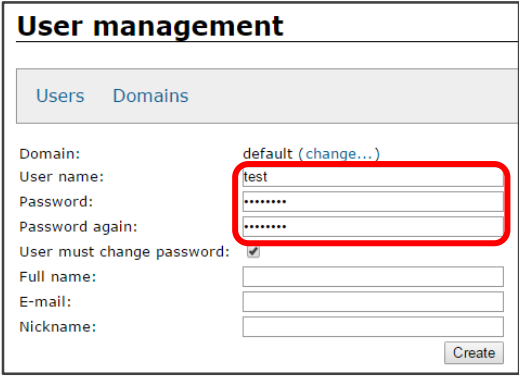
#### ■新規ユーザーの作成

1. 管理画面ページの左メニューから[User management]を選択します。
2. [Create user...]をクリックします。



The screenshot shows the 'User management' interface with the 'Users' tab selected. Below the tabs, there are filter options for 'Filter by domain' and 'Filter by username', and a 'Filter' button. A note states: 'Note: you can use standard wildcards like \* and ?'. The 'Create user...' button is highlighted with a red box. At the bottom, there is a table header with columns: Name, Action, Login enabled, ISL AlwaysOn, ISL Group, and ISL Light.

3. ユーザー名やパスワードなどの設定を入力し、[Create]ボタンをクリックします。  
(メール通知機能を使用しない場合は、E-mailの設定は必要ありません)



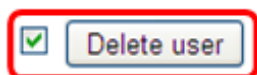
The screenshot shows the user creation form in the 'User management' interface. The 'Users' tab is selected. The form includes fields for: Domain (set to 'default (change...)'), User name (set to 'test'), Password (masked with dots), Password again (masked with dots), Full name, E-mail, and Nickname. There is a checkbox for 'User must change password' which is checked. A 'Create' button is at the bottom right. The 'User name' field is highlighted with a red box.

※メール通知機能を使用する場合は、メールサーバーの設定が必要です。別紙『ISL Conference Proxy 管理者ページ操作マニュアル』をご参照ください。

※[User must change password]を有効にしたままユーザーを作成すると、プロダクトログインページに初めてログインする時に、パスワードの変更を求められます。  
(プロダクトログインページでパスワードを変更しない限り、製品のご利用を開始できません。)

#### ■ユーザーの削除

1. 管理画面ページの左メニューから [User management] を選択します。
2. [Users] を選択します。
3. 削除したいユーザー名をクリックします。
4. 画面左下の [Delete user] にチェックを入れ、 [Delete user] をクリックします。



#### 4 プロダクトログインページ

ISL Conference Proxy のセットアップとユーザーの作成が完了したら、プロダクトログインページにアクセスして、ISL Online 製品が利用できるかどうかご確認ください。

[手順]

1. ブラウザのアドレスバーに「http:// (サーバーの IP アドレスまたはホスト名:ポート番号)」を入力します。
2. アクセスすると以下の画面が表示されます。画面右上の「ログイン」を選択し、「ユーザー名」と「パスワード」を入力してログインします。



3. ISL Online 製品 (ワンタイム接続・ISL Light など) による接続が行えるかどうか確認します。

※プロダクトログインページおよび各製品の操作の詳細は、マニュアルをご参照ください。

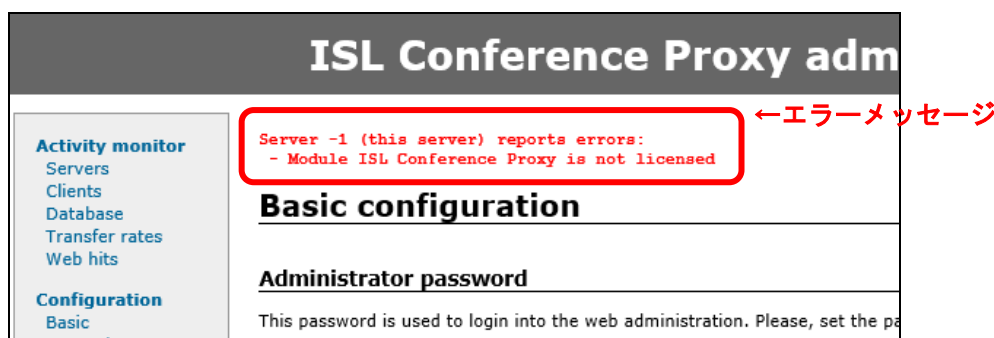
▼マニュアルダウンロードページ

<http://islonline.jp/help/manual.html>

※プロダクトログインページにアクセスできない場合は、「6 ネットワークの設定」を参照して、ファイアウォールの設定を見直してください。初期設定では、ISL Conference Proxy をインストールしたサーバーの内向き TCP ポート 7615、443、80 のいずれかを開放する必要があります。

## 5 ISL Conference Proxy のエラーメッセージ

ISL Conference Proxy がエラーを検出すると、赤文字でエラーメッセージが表示されます。主なエラーメッセージと回避方法をご案内いたします。



### ・『Module ISL Conference Proxy is not licensed』

ライセンスファイルが適用されていない場合に表示されます。P11 を参照してライセンスファイルの適用を行ってください。

### ・『NTP: Cannot synchronize time』

ISL Conference Proxy をインストールしたサーバー機が、NTP (ネットワーク・タイム・プロトコル) サーバーと同期が行えない場合に表示されます。(例：NTP が使用するポートが解放されていない場合など)

ISL Conference Proxy が使用する NTP サーバーは、以下の手順で指定できます。

[手順]

1. 当該サーバーもしくは社内のファイアーウォールなどで、UDP 接続のポート 123 (外向き) の通信を許可します
2. ISL Conference Proxy の管理画面にアクセスし、左側メニューの [Network time] の [Client] をクリックします
3. [NTP servers:] のチェックを外し、[Value] 内に NTP サーバーのアドレスを指定して、右下にある [Save] ボタンをクリックします
4. 管理画面左側メニュー上部の [Servers] をクリックし、[Select] にチェックを入れ、[Restart selected] ボタンをクリックして ISL Conference Proxy の再起動を行います

➡ (補足)

NTP サーバーから時刻を取得できなかった場合、ISL Conference Proxy は Windows の時刻を取得するため、このエラーメッセージが表示されていても ISL Conference Proxy の機能に影響はございません。NTP サーバーを使用せずに本エラーメッセージを回避する場合は、以下の手順をご参照ください。

[手順]

1. ISL Conference Proxy の管理画面にアクセスし、左側メニューの [Network time] の [Client] をクリックします
2. [Enable NTP client:] のチェックを外し、[No] を選択して、右下にある [Save] ボタンをクリックします
3. 管理画面左側メニュー上部の [Servers] をクリックし、[Select] にチェックを入れ、[Restart selected] ボタンをクリックして ISL Conference Proxy の再起動を行います

・『Cannot bind TCP port 80』、『Cannot bind TCP port 443』

ポート 80 または 443 を同サーバー上の他のサービスで利用している場合、本エラーが表示されます。21 ページを参照して、ISL Conference Proxy で使用するポートの変更を行ってください。

## 6 ネットワークの設定

ネットワークの設定を行います。ISL Conference Proxy のインストール後、ネットワークの設定を行うことで製品利用（接続）時に発生する問題を回避できます。

### ■ ファイアウォールの設定

ISL Conference Proxy を適切に動作させるには、TCP ポートの設定が必要です。ファイアウォールで内向きの TCP ポート 7615（推奨）、443（必須ではありません）、80（必須ではありません）を開放してください。

➡（補足）

- ・ 7615 のポートは必須ではありません。ISL Conference Proxy は 7615、80、443 以外のポートを指定して使うこともできますが、ISL 製品の最適なパフォーマンスを実現するには「7615」のポートが開放されている必要があります。（7615 が開放できない場合は、可能であれば 443、80 の 2 つを開放してください。）

## ■ポートの変更

ISL Conference Proxy は、デフォルトで 7615、443、80 の 3 つのポートが指定されています。使用するポートを変更する場合、あるいは管理画面でポートに関するエラーが表示されている場合は以下の手順に従ってください。

1. 管理画面ページの左メニューから [General] を選択します。
2. [HTTP ports:] のチェックを外し必要に応じてポート 80 または 443 を削除します。
3. 例：ポート 80 を削除する場合



4. 画面右下の [Save] ボタンをクリックします。
5. [Restart ISL Conference Proxy] ボタンが表示されるので、クリックして ISL Conference Proxy を再起動します。
6. 再起動が正常に終了すると、[Please click here to go back to the session] のリンクが表示されます。クリックすると、ISL Conference Proxy の管理画面に戻ります。

### ➡ (注意)

使用するポートを 443 のみに変更した場合は、設定後、ISL Conference Proxy の管理画面でサーバーを再起動した際に自動でログイン画面に戻らなくなります。10 分程度お待ちいただいた後に「<https://localhost/conf>」に直接アクセスしてください。

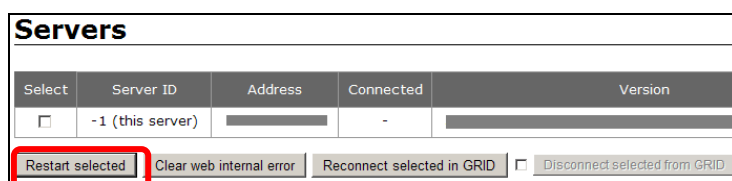
### 【補足】

- ・ ISL Conference Proxy はポート 7615 だけで稼働できます。ただしこの場合はファイアーウォールで保護されていないユーザーだけが ISL Conference Proxy にアクセスできるようになります。(代替手段として、21 (FTP)、110 (POP3)、143 (IMAP) などのよく使われる他のポートで動作するように ISL Conference Proxy を設定する方法もあります。)
- ・ 使用するポートを変更する場合は、上記 2. の手順で既存のポートの削除し、任意のポート番号を追加してください。
- ・ ポートを変更した際は、セッションを開始する前に製品のモジュール (ISL Light など) を再取得する必要があります。ISL Conference Proxy と製品モジュールのポート設定が異なる場合は、セッション開始時にエラーメッセージが表示されます。

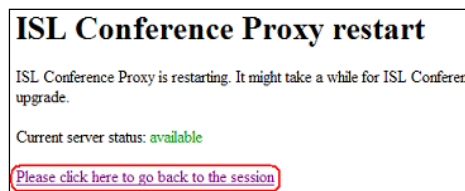
## 7 ISL Conference Proxy の再起動

ISL Conference Proxy を再起動する場合は、以下の手順に従ってください。

1. 管理画面にログインし、[Activity monitor] > [Servers]を選択します。
2. サーバーのチェックボックスをオンにし、[Restart selected] ボタンをクリックします。



3. [ISL Conference Proxy restart] ページが表示されるので、[Please click here to go back to the session]のリンクが表示されたらクリックします。リンクをクリックすると、再度管理画面にログインしてそのまま作業を続けることができます。



サーバーの再起動には数分程度かかる場合があります。

## 8 バックアップ

ISL Conference Proxy のインストールフォルダを別の場所にコピー・保存することでバックアップを取ることができます。

バックアップしたインストールフォルダから ISL Conference Proxy の復旧を行う手順については別紙『ISL Conference Proxy アップグレード&移行マニュアル』をご参照ください。

[手順]

1. ISL Conference Proxy のサービスを停止します。

Windows のスタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開いて、[ISL Conference Proxy]を停止した後、[ISL Conference Proxy Upgrade]を停止します。

2. ISL Conference Proxy のインストールフォルダ内にある全てのフォルダおよびファイルをコピーしてバックアップをとります。

▼インストールフォルダ（デフォルトの設定）

**C:\Program Files\ISL Conference Proxy**

または

**C:\Program Files (x86)\ISL Conference Proxy**

3. ISL Conference Proxy のサービスを開始します。  
[ISL Conference Proxy]と[ISL Conference Proxy upgrade]の2つのサービスを開始してください。  
（[ISL Conference Proxy]を開始すると、[ISL Conference Proxy upgrade]が自動的に開始されます。サービス[ISL Conference Proxy rights]は、開始する必要ありません。）

## 9 アンインストール

ISL Conference Proxy のアンインストールは、以下の手順に従って実行してください。

[手順]

1. コントロール パネルを開き、[プログラムの追加と削除]あるいは[プログラムと機能]をクリックして「ISL Conference Proxy」の削除を実行します。
2. ハードディスク上のすべてのデータファイルを削除する場合は、以下のインストールフォルダーも削除してください。

**C:\Program Files\ISL Conference Proxy**

または

**C:\Program Files (x86)\ISL Conference Proxy**

※ 同じ端末に再度 ISL Conference Proxy をインストールする際は、インストールフォルダ内のすべてのファイルを削除した後でインストールを行ってください。

製品の詳しい情報については、以下の ISL Online ウェブページをご参照ください。

<http://www.islonline.jp/>

ISL Online 開発元

XLAB d.o.o.

Pot za Brdom 100

SI-1000 Ljubljana

Slovenia, EU

URL: <http://www.xlab.si/>



ISL Online 国内総販売代理店

株式会社オーシャンブリッジ

〒150-0043

東京都渋谷区道玄坂 1-20-8

寿パークビル 7F

URL: <http://www.oceanbridge.jp/>

